

主日礼拝 2021年3月14日（日）

題 『断食についての問答』

テキスト：マルコによる福音書2章：18～22節

今日の聖書の個所には断食（だんじき）について記されています。

小見出しにも「断食についての問答」とあります。

主イエスの宣教活動の中で起こったことです。

イエスの活動を良く思っていない時の宗教的指導者であるファリサイ派の人々はイエスに議論を仕掛けて困らせようとしたのです。

その一つが断食問題です。

今日の聖書個所によれば、18節からです。

18:ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。

ところでこの断食ということは、わたしたち現代人にとってはあまりなじみのない事のように思えます。ただダイエットのためとか、健康のためとかで聞かことがあります。断食道場とかあるようです。淡路島にもあるのでしょうか？ それとは別の意味で約2000年まえのイスラエル、ユダヤ社会にも断食があったのです。現代においては引き継がれている宗教的な習慣だと思えます。そもそもこの断食の習慣は、ユダヤでは神さまへの悔い改めとか悲しみを表すものであったようです。「身を悩ます」「苦行をする。」宗教的謙虚さの表現であるとされます。レビ記16章29～31節、民の一年間の罪を贖う日、大贖罪日に行われました。「あなたがたは苦行をし」と定められています。

この習慣は初代教会にも引き継がれていたようです。使徒言行録にも断食期のことが記録されています。（使徒言行録27章9節）

イエスさまが地上を生きられた時代、ファリサイ人たちは、週に2回断食していたようです。それはモーセがシナイ山に登ったとされる木曜日と、山から下りたとされる月曜日だったようです。バプテスマのヨハネの弟子たちも度々断食していたようです。

このような歴史的な背景を覚えながら、今日の聖書の言葉から聞きたいと思うのです。

人々はイエスのところに来て言ったのです。「ヨハネの弟子たちとファリ

サイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは

断食しないのですか。」と。これは当時の真面目な人たちの気持ちの表とも

思えるのです。そこで、主イエスは新約聖書を読む限り、弟子たちに断食の義務を課せられることはなかったようです。しかし、それは正しい精神を持って断食することを非難されてのことではなく（マタイ 6 章 16～18 節）、ご自身公生涯に入る前には 40 日間の断食されました。（マタイ 4 章 2 節）

イエスは人に見せようとする見せかけの働き、まじめさ、謙虚さを嫌われます。偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。人は誤魔化せても神は誤魔化せないということです。詩編 51 編 18 節～19 節（P885）に「もしいけにえがあなたに喜ばれ 焼つくす献げものが御旨にかなうのなら わたしはそれをささげます。しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊、打ち砕かれ悔いる心を 神よ、あなたは悔(あなど)られません。」とあります。神さまは見かけよりもわたしたちの真心を喜んで受け入れてくださるのです。

イエスは質問する人たちに応えています。結婚式の披露宴、パーティー の場面を例にとってです。

19:イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるかぎり、断食はできない。

喜びの部屋に一緒にいる友だちたち、つまりイエスの弟子たちのことです。

イエスと共にいるということは喜びの時なのです。悲しみの時ではないのです。

「20:しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。」とはっきり言われました。

これはイエスが人間の罪故に苦しみを受け、十字架につけられる時のことだと思えます。その日には、彼らは断食することになる。弟子たちは、嘆き悲しみ、その悲しむ姿をありのまま表すだろうということです。教会に招き入れられたわたしたちもそうです。

また、もう一つのたとえでも教えてくださいました。

その教えの内容は、人の子であり、神の子であるイエスが地上に表れて「新しい時が来た」ということです。

「21:だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。」織りたての布とは、新しくまだ水でさらしていないので、古い服に継をされると水で濡れて宿んでしまい破れてしまう。修復しようとしても、かえって破れはひどくなる。つまり、ファイサイ派の人々が人によく見せようとして守っている形式的な断食の習慣

に合わせていくことは、愛なる神さまの本来の心ではないのだということかと思えます。

22:また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。それではぶどう酒も皮袋もダメになってしまいます。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。

イエスの到来によって新しい時が来たということ。

決して古い形がよくないということではなく、古いかたちにこだわり続けている精神、考えが良くないということ。争いが続いたり、その群れは維持できなくなるとの未来予告のようにも思えます。事実イスラエルは紀元70年ローマ軍によって壊滅的な破戒を蒙り、人々は流浪の民となって行ったのです。ただ勘違いをしてはいけないのは、それは古い事が悪いとか、良いとか、新しい事が良いとか、悪いとかではないということです。自分のしたい事、したくないことを第一とはせず、問題はイエスを第一とすることを受け入れ、自分たちの群れの歩みを考え整えようとしているかどうか、ということです。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。主イエスのよって与えられた愛の聖霊を受け入れて新しい歩みをつくって行くことの大切さです。

愛なる神さまによって教会に招き入れられた私たちのあり方にも当てはまることだと思えます。

神さまが与えてくださる、新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。

主イエスを教会のすべての土台とすること。年齢、性差、経験が第一ではないということ。

イエスさまと神さまを信頼し、互いに愛し合う心を大切にする群れとして成長して行くことです。

今日イエスさまのたとえから学んだことを自分と家族の在り方、教会の運営にも生かして行きたいと願います。その時、豊かな実りが与えられると信じます。

◆断食についての問答

- 18:ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」
- 19:イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるかぎり、断食はできない。」
- 20:しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。
- 21:だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。
- 22:また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」